

アイルランドにおけるアイルランド語使用の歴史の変遷

廣瀬 浩二

1. はじめに

アイルランド憲法第8条（Article 8 of the Irish Constitution）では、第一公用語をアイルランド語（the Irish language）・ゲール語（Gaelic）とし、英語を第二公用語として規定している。ダブリンでは、実際、街の様々な場所でアイルランド語を目にする機会がある。例えば、大学名は最初にアイルランド語で次に英語で書かれている。しかし、話し言葉の点では、バスなど公共交通機関の車内アナウンス以外では、日常的にアイルランド語を聞くことはない。

Article 8

- 1 The Irish language as the national language is the first official language.
- 2 The English language is recognised as a second official language.
- 3 Provision may, however, be made by law for the exclusive use of either of the said languages for any one or more official purposes, either throughout the State or in any part thereof.

現在、アイルランド語・ゲール語（以下、アイルランド語）はゲールタハト（Gaeltacht）と呼ばれる地域で、アイルランド語が第一言語として話されているにすぎない。ゲールタハトは、誇りを持って歴史的ルーツを保護しようとする辺境の西部と北西地域の農村部である。しかし、こういった場所でさえも、アイルランド語の使用は衰退の道をたどっている。2万人から3万人程度と考えられている。一方、すべての科目をアイルランド語で教える学校も増えている。アイルランド政府もメディア（Raidió na GaeltachtaとTG4）を通してアイルランド語使用を奨励している。

アイルランドが、アイルランド語と英語の2つの言語を公用語とするに至った経緯を知ることは、アイルランドの現在の社会状況をより深く知ることになるであろう。本稿では、アイルランド語をその使用の社会的側面、即ち、社会言語学的にその歴史の変遷を考察した。ここでは、特に、紀元前からアイルランド語の形成期と言われる1200年から1500年までのアイルランドの語の歴史の変遷を考察した。

2. 紀元前からキリスト教の到来まで

紀元前8000年、アイルランドは、まさに人の住まない野生の緑の島であった。氷河期の終わり頃、北ヨーロッパを覆っていた氷が溶けて、人間には厳しすぎるが、動物や植物の

生存をкаろうじて可能にする気候が生まれた。かつてはアイルランドと英国はヨーロッパ大陸の一部であった。しかし、氷河が溶けて周囲の海の水位が上昇した際に、アイルランドはブリテン島から完全に切り離され、気候も良くなった。人々は環境を克服し、このヨーロッパの西の最果ての島に定住するようになった。

最終氷河期からの氷河がヨーロッパから後退し、急速に森林が発達した。この結果、氷河期の間、草で覆われた草原地帯で草を食べていた鹿や馬が追い出された。このことから、初期ヨーロッパの狩猟民族は食糧を求め、移住がよくみられるようになった。

中石器時代の紀元前8000年から7000年の間に、最初の間人がアイルランドに足を踏み入れた。この最初のアイルランドの居住者は、海水面の上昇によって進行を妨げられる前に、英国を通過して、スカンジナビアから渡って来たものと考えられている。これらアイルランドに渡った最初の人々は、狩猟採集民族であった。彼らは、石から道具を作り、その道具を狩猟で使用した。彼らは、主に、食糧が豊富なアイルランド北東部に定住した。

紀元前4000年頃、新たな人々が、新たな考えを持って、アイルランドに渡ってきた。彼らは、穀物を栽培するための土地を耕した。石の道具で長い木造家屋を作り、動物を家畜化した。これら新石器時代の人々は、中石器時代の人々の生活を発展させていった。この新たな人々が小規模定住生活の基礎を築いた。基本的には農業を行い、森林を伐採して燃料にし、道具を作り、狩猟を行い、動物を飼育した。これらの人々は、比較的、洗練されていたと思われる。これは、死者の扱いから明らかである。紀元前3000年から1800年頃と思われる巨大な墓石がアイルランド一帯でみられる。埋葬室の内部は、装飾が施されている。これらの装飾には多大な時間が費やされたと思われるからである。

紀元前2000年までには、青銅器時代の到来とともに、金属器使用の技術がアイルランドにもたらされた。これは主に、ヨーロッパを通過してやってきた中東の人々の移住によるものである。金属加工術は実用的な物に適用された。ナイフ・剣・やりの穂先などの武器、家庭の道具、宝石などに応用された。この金属加工術はさらに進歩し、初期のすき(plough)など、更に、洗練された道具が作られるようになった。

紀元前1200年頃、ケルト人の居住地域は中央ヨーロッパから大きく広がり、アイルランドにも及んだ。紀元前600年頃から、ヨーロッパでは、特に、中央ヨーロッパで鉄を使用する民族によって鉄器時代が始まった。古代ギリシャ人は、これらのアルプス地域に住んでいた人々を、「野蛮人」を意味するケルトイ(keltoi)と呼んだ。Celts(kelts)の名称は、ケルトイ(keltoi)の名前に由来する。彼らの優れた鉄の技術は、アルプス地域から西部や北部へと徐々に広がり、ヨーロッパ全域に広がった。ケルト人の移動は、2通りあった。一つは、ヨーロッパから直接アイルランド西部へと渡ってきた移動である。もう一つは、イギリス北部から渡ってきて、アイルランド北東部に定住した移動である。これまで、ケルト人のアイルランドへの侵入は紀元前500年頃と考えられてきたが、現代の考古学ではゆっくりとした移住が行われたと考えられている。紀元前150年頃にはアイルランド全島

をその勢力下に収めたとみられる。

紀元前300年頃、ケルト語を話す住民は言語だけでなく、その他の社会生活・制度においても、ヨーロッパの広大な地域に住んでいた他の民族との共通点を持っている。(a) ケルト人は、ヨーロッパから言語と文化を持ち込んだ。(b) ケルト人は徹底して先住民に彼らの言語と文化を押し付けたので、先住民の文化の痕跡は残っていない。(c) 砦や住居、素朴な道具、優れた埋葬様式が現存している。

アイルランドに来た最初のケルト人は、イベリア半島から来たと考えられ、アイルランド南部と西部に定着した。彼らはQ-Celticと呼ばれる言語を話した、とされる。数世紀に渡って、これらケルト人は初期のアイルランド居住者と融合し、ゆっくりと彼らの言語と文化を吸収していった。この言語の進化がアイルランドの島全体に普及するゲール語 (Irish Gaelic) となった、と考えられる。この言語とそれに伴う文化が、アイルランドケルト人とヨーロッパの他の地域に住む人々とを分離することとなった。この言語の進化がアイルランド語・ゲール語の形成に貢献することとなった。その後、アイルランド語・ゲール語がアイルランド全土で使用されるに至った。このアイルランド語・ゲール語とそれに伴う文化が結果として、アイルランドのケルト人と他のヨーロッパのケルト人とを分断することとなっていった。

ある時期に、アイルランド人は自分達を外国人と区別するために、Gaelsという用語を使用した。アイルランドの伝説によると、Gaelは、聖書のノアの孫息子のGaedheal Glasからきている。このGaedheal Glasがアイルランド語を作ったと言われている。

Q-Celticを話すケルト人がアイルランドに到着してから数百年後、別のグループのケルト人がイギリスからやって来て、北部に定着した。文化的には似ていたが、この新しいケルト人は、いくつかの点でQ-Celticを話すケルト人よりも進んでいた。それは、特に、手工芸の点で顕著であった。

結果的に、南部で支配的であったQ-Celticを話すケルト人は、新たにやってきたケルト人と融合していった。Q-Celticを話すケルト人は、新たにやってきたケルト人の進んだ文化を取り入れたが、Q-Celticの代わりに彼らの言語を話すようになっていった。ケルト人は、彼らより先に定住していた青銅器アイルランド人に数で勝りそうもなかったが、鉄技術の優位性や家族単位の緊密性のために、彼らの文化はアイルランド全島で支配的となった。

ケルト社会では、ドルイド (druids) とフィリ (fili) は、僧侶・預言者・裁判官・歴史家の役割を果たしていた。フィリ (fili) は、ケルトの詩人であり、古い口述された学問を研究・暗唱して何年も過ごしたようである。ドルイド (druids) は精神世界を中心に研究を行ったが、フィリ (fili) は物質世界を中心に研究を行った。フィリ (fili) は、歴史・系譜・法律を記憶した。フィリ (fili) は、これらの知識を詩の形式で記憶したが、必ず

しも上演はしなかった。フィリ (fili) の仕事は、知識を保存することであって、人々を楽しませることではなかったからである。

キリスト教の到来と共に、ゲール人社会は大きな変化を経験することとなった。徐々に、ドルイド (druids) は、教会によって異なる階級として追いやられ消えていった。孤立したドルイドのコミュニティは中世まで存続し続けることができたが、結果として、ドルイドのコミュニティは絶えてしまい、口述で伝えられた知識のほとんどは失われた。しかし、知識の中には、その後さらに数世紀の間、保存に努めたフィリ (fili) によって、存続し続けたものもあった。

教会の出現によって、フィリ (fili) はラテン語のアルファベットを使用して、アイルランド語で最初の文書を書いた。古代アイルランドの歴史や神話が今日まで残っているのは、これらフィリ (fili) の作業の賜物である。

結果として、ゲール人の文化や言語の組織的破壊は、数百年前にドルイド (druids) に対して行ったように、フィリ (fili) を消し去った。これら2つのゲール人の聖職 (階級) は、消え去って長い時間が経つが、その精神は、現代アイルランドの政治家・法律家・芸術家・職人・歌手の多くの人の中に生き続けている。

ケルト人は、真の歴史を残さなかったが、150以上の物語が残っており、古代文化を垣間見せてくれる。アイルランド最大の宝は、金や宝石ではない。アイルランドの宝は、古く傷んだ不完全な原稿である。これらの数少ない本は、中世に遡るが、とにかく存在し続けており、まさに奇跡にほかならない。火災・戦争・修道院の解体、アイルランド語と文化の禁止をくぐり抜けて、古くからの学術書は、持ちこたえた。最後のゲール文化であるアイルランドの真の物語を現代に残している。

今日、ちょうど150を超えるくらいの物語が残っている。これらの物語は様々な断片やバージョンで古代ゲールの時代から伝えられたものである。しかし、これらの物語の内容が明らかになったのは19世紀初頭に、ドイツ人学者が古代アイルランド語文法体系を解き明かしたからである。ドイツ人学者がこれらの物語を再び生き返らせたのである。研究の一部として、研究者達は、内容やテーマを基に、物語 (story) をサイクル (cycle) にグループ分けした。例えば、the Ulster Cycle, the Fenian Cycle, the Mythological Cycle, the Cycle of Kingsのようなサイクル名に分けた。

今日、アイルランドの神話と伝説は、その原稿が博物館や図書館に保存されており、多くのコピーや翻訳も行われている。しかし、もし、知られざる英雄たちの行動がなかったら、アイルランドの宝は永遠に失われていたことであつたらう。

3. アングロノルマン人の侵略以前

アイルランドとその文化についてよく知られているのはキリスト教が入ってきた400年から600年以降である。キリスト教とともにラテン語とアルファベットがもたらされた。これより以前の時代には、アイルランドの住民が話した言語は記録されておらず、詳細は不明である。

キリスト教伝道者たちは、修道院のネットワークをアイルランド国内に張り巡らせた。その遺跡は、ウィックロー州のグレンダロッホ (Glendalough) やロスコモン州とウエストミース州にまたがる町、アスローンにあるクロンマクノイズ (Clonmacnoise) に見ることができる。修道院は学習の中心であった。修道院は現在の大学に似た機能を果たしていたと考えられる。教会で使用される言語はラテン語であったため、中世の文書の多くはラテン語で書かれていた。キリスト教に関する文書はもちろんであるが、歴史・法律・医学・文学などもラテン語で書かれていた。ラテン語の利点の一つは、ラテン語は当時の国際語で、アイルランドの聖職者達が容易に大陸の聖職者達と連絡を取り合うことができた。かなり多くのアイルランドの聖職者達は、研究・布教等で海外に行った際には、ラテン語をコミュニケーションの手段として使用していた。

7世紀の初めまでに、アイルランドの修道士達は、アイルランド語を記録するために、ラテン語のアルファベットを取り入れた。当時の言語である古アイルランド語 (Old Irish) の文法をまとめるのに十分な文書が記録されていた。写本の多くは、スイスやドイツといったヨーロッパ大陸の修道院に保管してあった。中世においては、アイルランドはヨーロッパの他の国々と異なっていた。ヨーロッパの他の国々では、依然としてラテン語が使用されていた。しかし、アイルランドでは、8世紀以降、聖職者も聖職者以外の人々も長い文章を記録するためにアイルランド語を使用し始めた。中世アイルランドの文学の多くは、900年から1200年の時代に修道院で書かれた写本に残っている。この頃書かれた重要な分野は、歴史的な話・英雄の話・法律文書・聖人の生活などである。

800年頃には、スカンジナビアからバイキングがアイルランドを侵略し始めた。最初は、短期の侵略に留めていたが、すぐに、長期間、居座り始め、ついには、都市を作った。最も重要な都市は、ダブリンであった。数百年の間、バイキングの言語である古ノルド語 (Old Norse) を話す小さなコミュニティがあったと推測されている。アイルランド語と古ノルド語の両言語を話す人は多くいたと思われる。しかし、1200年までに、言語に関しては、ノルマン民族 (Norsemen) は、一般のアイルランドコミュニティに比較的よく同化したと思われる。古ノルド語からアイルランド語への借用語があった。例えば、次のような語である。

例：margadh (市場), beóir (ビール), garrai (庭、庭園), trosc (鱈)

最終的には、ノルマン民族は新しい環境に適応し、その国で話されている言語、アイルラ

ンド語を獲得した。

800年頃には、アイルランド最大の宝物の一つであるケルズの書がラテン語で書かれた。これは福音書であり、手書きであり、カラーの美しいイラストが描かれている。古来最高の装飾写本の一つとして認められている。ダブリンのトリニティ・カレッジの図書館に約300年にわたって保管されている。

最初のバイキングの侵略（800年頃）に続く300年は、社会的・政治的に大変動の時期であった。この間に、ゲール人とアイルランドの多くの地域を支配しようとするバイキング支配層との間で、様々な連合が形成された。言語学的には、900年から1200年の時代は、中期アイルランド語（Middle Irish）の時代と言われる。古アイルランド語が多くの劇的な変化を経験し、結果的に、異なる言語になってしまったからである。言語学的変化は、当時の社会的混乱によって引き起こされたかもしれない。他の言語においても、言語発達のきっかけとして政治的・社会的変化が挙げられることがあるのと同様である。

1200年当時、アイルランド語を話す地域は、アイルランドだけではなかった。5世紀に始まるアイルランド人によるアイルランドから他国への侵入は、スコットランドに対して行われ、スコットランドにはアイルランド人が多数定住していた。キリスト教は最初の足掛かりを西海岸のアイオナ島に得た。そこからスコットランド南西部及びスコットランド高地地方へと広がった。ゲール人の王国は、9世紀にはスコットランドに確立した。12世紀になると、スコットランド南部では、使用言語はアイルランド語から英語に変わった。しかし、アイルランド語は、その後、数世紀にわたってスコットランド高地地方やウエスタンアイルズ州で使用された。結果的には、スコットランド・ゲール語と呼ばれる別の言語になっていった。アイルランド語は、同時期に、マン島の言語ともなった。この言語は、後に、マン島語となった。

古アイルランド語と中期アイルランド語は、現代アイルランド語とはかなり異なっていた。一例を挙げると、「私はその君主を恐れます」は、古アイルランド語と中期アイルランド語では大きく異なっている。

古アイルランド語では、	intí	adagadar	in Coimdid		
	その人	恐れる	その君主		
中期アイルランド語では、	Tá	eagla	orm	roimh	an Tiarna
	です	恐れる	私	～の前に	その君主

中期アイルランド語では、前置詞（roimh, ～の前に）が挿入されている。構文的には、古アイルランド語の方が、英語に近い。1200年以前と以後では、アイルランド語は大きく変化していった。それはアングロノルマン人の侵攻が大きく影響している。

4. アングロノルマン人のアイルランドの征服

アイルランドにとって、1169年は際立った年の一つである。この1169年に、イングランドのアングロノルマン人が周辺国に侵攻したのであった。イングランド王国の国王であったヘンリー二世は、わずか6年の間に、公式にアイルランド卿として認められ、ヘンリー二世のアングロノルマン人の軍のリーダー達もレンスター地方、マンスター地方、コナハト地方の多くの地域で支配権を得た。ダブリンは、新しい政府と行政の中心地となった。軍に続いて多くの居住者がアイルランドに定住し、ダブリン、コーク、リムリック、ウォーターフォード、キルケニー、ケア、ゴールウエイ、ダンダルクなどの都市を形成していった。これら新しい支配層は、地方においては、城を建設するなどした。

アングロノルマン人の侵攻は成功したが、アイルランドの首長たちは、徐々に、再集結し、抵抗し始めた。1200年から1500年の時期は、英国王とアイルランドとアングロノルマン人領主との間で断続的な戦争と停戦が繰り返され、いずれの側も決定的な勝利に至らない期間であった。アイルランド人とアングロノルマン人の間では婚姻が行われ、当初、存在していた侵略した者と侵略された者という区別が薄れてきた。特に、アイルランド南西部と西部においては、イギリス人の影響はダブリン近郊より弱かったので、区別が薄れていった。

アングロノルマン人は、異なる社会システムや法体系を持ち込み、アイルランドのいたるところで強要しようとした。2地域のみで永続的に英国法や習慣を確立するのに成功したといえる。一つは、ペイルと呼ばれる、ダブリン州・ラウス州・ミース州・キルデア州・ウィックロー州から成る地域である。もう一つは、アイルランドの南東部、ウエックスフォード州である。このウエックスフォード州はアングロノルマン人が、1169年に足を踏み入れた土地である。アイルランドの他の地域では、アイルランド法と英国法が混ざった法であったり、アイルランド法だけであった。

5. アングロノルマン人の征服による言語的・文化的影響

アイルランドにおけるアングロノルマン人の征服の言語的な重要点は、アイルランド語に新しい要素、つまり英語を持ち込んだ点にある。1100年から1200年の期間にアイルランドに侵攻し、定住した人々のグループには、言語使用の点においては、英語とフランス語の両言語話者と英語話者が混在した。貴族階級は、英語とフランス語の両言語を話したが、ほとんどの兵士や住民は英語を話した。次の100年くらいの間、多くのフランス語話者の行政官や貴族が、英国王の利益を代表する者として、アイルランドに送られた。13世紀から14世紀にかけて、アイルランドの出来事をノルマンフランス語で綴った文学がいくつか残されている。1350年以降は、アイルランドへの新規入植者は、ほぼ完全に英語話者のみとなった。英国におけるフランス語使用と同様に、アイルランドにおいてもフランス語は法律・行政の分野において、数世紀の間使用され続けた。これは書き言葉に限ったことで

あった。しかし、フランス語は、沿岸地域に住む大陸と取引を行う商人の間では、商取引の共通言語として話され続けた。その他、貴族社会や修道会でもフランス語が話された。

1200年から1500年の間は、英語話者の居住は君主の支配下にある地域に限定されていた。そのため、南東部の都市では英語が話されていた。この地域以外でも、南部や西部の高貴なアングロノルマンの家庭では、ある程度、英語が話されていた。アイルランド語はダブリンなど都市部の多くの住民によって依然として話されていた。

6. アイルランド人よりアイルランド人らしいアングロノルマン人

時が経つにつれて、アングロノルマン人の家庭は、アイルランド語やアイルランドの習慣を獲得するようになった。このことは、17世紀の歴史家ジョン・リンチによって、*Hibernicis ipsis Hiberniores*（アイルランド人よりアイルランド人らしい）と言われるまでになった。アングロノルマン人の支配層の人々もアイルランド語を話すことに心地よさを感じていたようである。それだけでなく、彼らは、詩や音楽などアイルランドの文化的表現形式を積極的に取り入れた。ゲール人とアングロノルマン人を表すのにGaelとGallという用語が使用される。Gaelは、アイルランドにおけるゲール人の住人のことで、Gallは、侵略者アングロノルマン人の子孫のことである。GaelもGallもアイルランド語を話す、民族的な違いはあり、時には、武力衝突もあったようである。

GaelとGallという用語は、17世紀のゲール人社会の崩壊後も使用され、1600年から1850年の詩にも広く使用された。年数を経るとともに、GaelとGallという用語は、明確に区別されるようになった。Gaelは、民族的、言語的、文化的、宗教的価値を表す際に使用される用語となり、Gallは、これらの価値とは全く性質の異なるものを表す際に使用された。

アングロノルマン人のアイルランドへの同化がかなり広範囲に及んでいたことが、残された文章から明らかである。中世アイルランドにおける政治・行政の最も重要な中心地の一つは、キルケニーであった。1366年に開催されたアイルランド議会では、‘Statutes of Kilkenny’ と呼ばれる法律が制定された。この法律の中で、議員達は、アングロノルマン人のゲール人化に言及していた。例えば、「現在では、多くの英国人は英国の言語、習慣、法律、乗馬法を捨て、アイルランドの言語、習慣、生活様式に従って生活している」と述べ（Crowley, 2000）、その矯正手段として、英国人は英語を使用し、英国風の名前をつけ、英国の習慣、服装、乗馬法を使用するように定めている。

アングロノルマン人がアイルランドに侵攻した当初は、英語が幅をきかせたが、その後は、徐々に、アングロノルマン人がアイルランド語を使用するようになっていった。しかし、アングロノルマン人の侵攻の後、数世紀の間、英語はアイルランド語に大いに影響を与えた。それは、書き言葉においては翻訳によってである。アングロノルマン人のアイルランドへの侵攻とその後の時期に、多くの文書が英語からアイルランド語に翻訳された。翻訳された文書は、当時、ヨーロッパ全体でよく見られた文書の類である。例えば、アー

サー王と騎士に関連したロマンス物語、聖人の生活、医学論文、マルコポーロの中国訪問といった旅行書などであった。

話し言葉においては、英語とアイルランド語を話すコミュニティの間で多くの通訳が行われた。特に、商取引の分野では盛んに通訳が行われた。書き言葉における翻訳と話し言葉における通訳は、アイルランド語の語彙の充実につながった。また、同時に、教養のあるアイルランド人の知的生活をも充実させることになった。当時のアイルランドとヨーロッパ大陸の国々を比較した場合、言語と社会の発達の点では、遜色ないと思われる。アイルランドと他のヨーロッパ各国との接点は、フランシスコ修道会のような修道会の活動にあった。アイルランドの修道士、修道僧は頻繁に海外を旅し、他の国々の文化的知識を持ち帰り、当時のアイルランド語で書かれて文書となった。

7. まとめ

本稿では、アイルランドにおける言語の使用の変遷を紀元前からアイルランド語の形成期といわれる1500年まで辿ってみた。バイキングやアングロノルマン人によるアイルランドへの侵攻によって、使用言語も大きく影響を受けた。海外からの侵入者達は、侵攻当初こそ自分たちの言語や習慣をアイルランド人に強要したが、徐々に、アイルランド人社会に馴染んでいった。その過程で、アイルランド語はバイキングやアングロノルマン人達が使用した言語の影響を大きく受けたと思われる。1200年から1500年の期間は、初期現代アイルランド語 (Early Modern Irish) の時期であった。1500年当時は、アイルランド語を話す地域が多数を占め、少数のアイルランド語と英語を話す地域とわずかの英語を話す地域に分けられた。この後、英語が主要言語に変わっていく様子は、別に、考えていくこととする。

謝辞

筆者は、平成27年にアイルランドからの奨学金 (2015 Ireland Scholarship Programme) によって、4週間、ダブリン市立大学 (Dublin City University) にて研究する機会を得た。ダブリン滞在中に、地元の人々との対話に触発され、アイルランドにおけるアイルランド語の使用とその歴史の変遷について考察するに至った。奨学金を支給してくれたアイルランド政府系機関Fáilte Irelandに感謝する次第である。

参考文献

- Austin, J., & Mathews, K. (2013). *Irish Language & Culture* (2nd ed.). Footscray: Lonely Planet Publications.
- Boran, P. (2000). *A Short History of Dublin*. Cork: Mercier Press.
- Coohill, J. (2014). *Ireland: A Short History*. London: Oneworld Publications.
- Crowley, T. (2000). *The Politics of Language in Ireland, 1366-1922*. London: Routledge.
- Doyle, A. (2015). *A History of the Irish Language: From the Norman Invasion to Independence*. Oxford: Oxford University Press.
- McCullough, J. (2010). *A Pocket History of Ireland*. Dublin: Gill & Macmillan.
- O'Brien, E. (2007). *Exploring the Book of Kells*. Dublin: The O'Brien Press.
- Viney, B. (2008). *The History of the English Language*. Oxford: Oxford University Press.